

景況レポート

No.138

2022年1月～3月期



北見しんきん

〒090-8711 北見市大通東1丁目2番地1
電話(代) 0157-66-3111
URL: <http://www.shinkin.co.jp/kitami/>
本レポートはホームページでもご覧になれます。

景気動向

道内景気

日本銀行札幌支店が4月1日に発表した3月の企業短期経済観測調査結果(短観)によりますと、道内企業の景況感を示す業況判断指数(DI:「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値)は全産業で▲10となり、前回の調査『▲2』から悪化しました。内訳では、製造業(前回12→今回▲11)、非製造業(前回▲5→今回▲10)ともに悪化しました。2022年6月までの全産業での先行き予測は▲14と、悪化の見通しです。

また、4月1日に発表された道内の金融経済概況は次の通りです。道内の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している。個人消費は、サービス消費を中心に下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している。観光は、引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっている。設備投資は、緩やかに持ち直している。公共投資は、高水準ながら弱めの動きとなっている。住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。生産は、横ばい圏内の動きとなっている。輸出は、持ち直している。雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている。

- ・ 公共工事請負金額は、高水準ながら、年度累計前年比でみると、弱めの動きとなっている。
- ・ 個人消費では、スーパー、ドラッグストアは、底堅い動きとなっている。コンビニエンスストアは、持ち直している。家電販売は、横ばい圏内の動きとなっている。乗用車販売は、供給制約の影響により、持ち直しの動きが一服している。百貨店、サービス消費は、下押し圧力が強い状態にあり、弱い動きとなっている。
- ・ 観光は、引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっている。
- ・ 新設住宅着工戸数をみると、持家は減少している。貸家は低水準で推移している。分譲は持ち直している。
- ・ 生産(鉱工業生産)は、主要業種別にみると、食料品では、一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直しつつある。輸送機械では、緩やかに持ち直している。電気機械では、横ばい圏内の動きとなっている。紙・パルプでは、減少している。
- ・ 雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている。
- ・ 消費者物価(除く生鮮食品)は、エネルギー価格を中心に前年を上回っている。
- ・ 企業倒産は、低水準で推移している。

地区内景気

今回の当金庫の景気動向調査による北見地区の景況は、前年同期と比較したDI値は、売上高が▲30と7ポイントの悪化、収益も▲34と8ポイントの悪化でした。直前3ヵ月と比較した今後3ヵ月の見通しでは、売上DI値は▲9、収益DI値は▲17と、改善の見通しとなっています。

特別調査 【原材料・仕入価格の上昇による中小企業への影響について】

原油価格をはじめとした各種資源価格の上昇に加え、半導体不足、ウッドショックといった仕入環境の悪化は、中小企業の経営に様々な悪影響をおよぼしています。そこで今回は、原材料・仕入価格の上昇に伴う中小企業への影響について調査しました。

【原材料・仕入価格の上昇による収益への影響】

「危機的な悪影響」「かなり悪影響」「多少悪影響」の合計 84.4%が何らかの悪影響を受けている結果となりました。対して、「ほとんど影響はない」は 11.7%、「むしろ好影響がある」は 1.1%となりました。

【原材料・仕入価格の1年前と比較した変化】

「5～10%程度の上昇」が 25.0%と最も高く、以下「3～5%程度の上昇」(18.3%)、「0～3%程度の上昇」(12.8%)、「10～15%程度の上昇」(12.8%)が続いています。

【販売価格に転嫁できている割合】

「転嫁できている」から「多少転嫁できている」までの合計 61.2%の企業が転嫁できている一方で、「ほとんど転嫁できていない」が 22.2%、「全く転嫁できていない」が 5.6%と、企業間で格差が見られました。

【各種資材や製商品の量や質の確保状況と対策】

「必要量・質が確保できている」は 47.8%となりました。確保できていない企業が行っている対策については「代替商品の調達(同等品質)」(20.6%)が最も高く、以下「販売先への納期の調整」(19.4%)、「代替品の調達(品質の見直しなど)」(13.3%)が続いています。

【仕入先の見直し等を検討するにあたって重視する点】

「仕入価格」が 40.0%と最も高くなりました。以下、「安定供給力」(30.6%)、「商品の品質」(30.0%)、「日頃からの付き合い・紹介」(25.0%)が続きました。対して、「仕入先の見直しは検討していない」は 37.8%となりました。

【貴社では、最近の原材料・仕入価格の上昇により収益にどのような影響を受けていますか。下記の1～7の中から1つ選んでお答えください。】

	《全国》	
1. 危機的な悪影響がある	0.5%	2.0%
2. かなり悪影響がある	36.1%	24.6%
3. 多少悪影響がある	47.8%	48.9%
4. ほとんど影響はない	11.7%	19.3%
5. むしろ好影響がある	1.1%	1.0%
6. わからない	2.8%	3.9%
7. その他	0.0%	0.3%

【貴社の原材料・仕入価格は、1年前と比較してどの程度変化しましたか。下記の1～0の中から1つ選んでお答えください。】

	《全国》	
1. 0～3%程度の上昇	12.8%	18.3%
2. 3～5%程度の上昇	18.3%	19.7%
3. 5～10%程度の上昇	25.0%	22.2%
4. 10～15%程度の上昇	12.8%	13.3%
5. 15～20%程度の上昇	12.2%	7.3%
6. 20～25%程度の上昇	5.0%	2.8%
7. 25～30%程度の上昇	2.2%	1.9%
8. 30%以上の上昇	3.3%	2.8%
9. むしろ低下	0.6%	0.7%
0. わからない	7.8%	10.9%

【貴社では、原材料・仕入価格の上昇のうち、どの程度を販売価格に転嫁できていますか。下記の1～9の中から1つ選んでお答えください。】

	《全国》	
1. 転嫁できている (仕入価格上昇の100%)	6.7%	5.9%
2. ほぼ転嫁できている (" 80～100%程度)	16.1%	11.2%
3. ある程度転嫁できている (" 50～80%程度)	17.8%	18.0%
4. 多少転嫁できている (" 20～50%程度)	20.6%	20.2%
5. ほとんど転嫁できていない (" 0～20%程度)	22.2%	23.2%
6. 全く転嫁できていない (" 0%)	5.6%	6.0%
7. 転嫁どころか販売価格は低下している	0.5%	0.8%
8. 仕入価格は上昇していないので転嫁の必要なし	3.3%	6.4%
9. わからない	7.2%	8.3%

【原材料・仕入については、価格の上昇のほか、調達遅延、数量確保困難などといった声も聞かれています。貴社では、各種資材や製商品の量や質は確保できていますか。確保できているという方は1を、問題を抱えている方は現在行っている対策を2～0の中から最大3つまで選んでお答えください。】

	《全国》	
1. 必要量・質が確保できている (値上げによる調達を含む)	47.8%	40.7%
2. 代替商品の調達(同等品質)	20.6%	14.0%
3. 代替品の調達(品質の見直しなど)	13.3%	7.8%
4. 仕入れ先の変更・多角化	10.6%	13.1%
5. 受注(販売)数量の制限	8.3%	6.1%
6. 受注(販売)の停止	2.2%	1.5%
7. 販売先への納期の調整	19.4%	16.3%
8. 取扱商品の見直し(新商品など)	6.7%	5.0%
9. その他	1.1%	0.8%
0. 特に対応を行っていない	15.6%	21.7%

【仕入の困難化に伴い、仕入先を見直す動きも出ています。貴社では、仕入先の見直し等を検討するにあたって、重視する点はありますか。1～0の中から最大3つまで選んでお答えください。】

	《全国》	
1. 仕入価格	40.0%	45.9%
2. 商品の品質	30.0%	31.5%
3. 日頃からの付き合い・紹介	25.0%	19.1%
4. 安定供給力	30.6%	26.4%
5. 支払期日・支払方法	3.3%	3.1%
6. 配送・納期の融通	14.4%	12.4%
7. 注文単位	7.2%	4.7%
8. SDGs等、環境問題への取組み	0.0%	1.4%
9. その他	0.6%	0.5%
0. 仕入先の見直しは検討していない	37.8%	34.1%

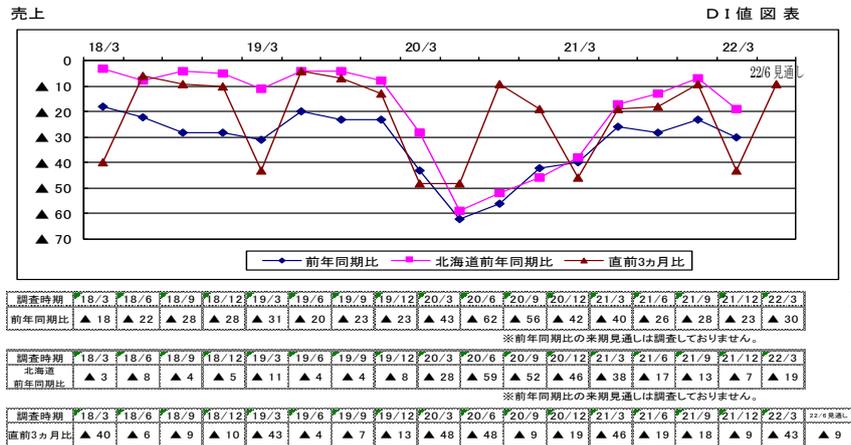
売上

調査対象先企業180社の売上を総体的にみますと、前年同期(21年1~3月)と比較して「増加」した先19%、「変らず」の先32%、「減少」した先49%で、そのD I値(増加割合-減少割合)は▲30となり、前回調査より7ポイント悪化しました。

業種別で見ますと、建設業は改善、製造業・卸売業・サービス業は悪化、小売業は横ばいとなっています。

3ヵ月毎の比較では悪化、今後3ヵ月は改善の見込みです。

グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。



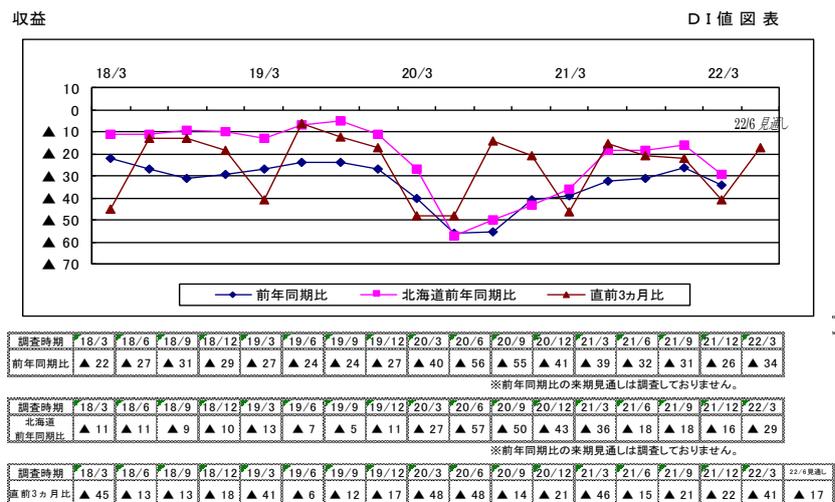
収益

調査対象先企業180社の収益を総体的にみますと、前年同期(21年1~3月)と比較して「増加」した先14%、「変らず」の先38%、「減少」した先48%で、そのD I値(増加割合-減少割合)は▲34となり、前回調査より8ポイント悪化しました。

業種別で見ますと、建設業は改善、製造業・卸売業・小売業・サービス業は悪化となっています。

3ヵ月毎の比較では悪化、今後3ヵ月は改善の見込みです。

グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。



概況

調査先製造業全体の業況を前年同期（21年1～3月）と比較してみますと、売上で「増加」した先19%、「変わらず」の先36%、「減少」した先45%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲26となり、前回調査より13ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先22%、「変わらず」の先33%、「減少」した先45%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲23となり、前回調査より20ポイント悪化しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	DI値
売上	前回(21/12)	10	7	14	▲13
	今回(22/3)	6	11	14	▲26
収益	前回(21/12)	12	6	13	▲3
	今回(22/3)	7	10	14	▲23

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

内訳をみますと、建設業の売上・収益が改善しましたが、それ以外は全般的に悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

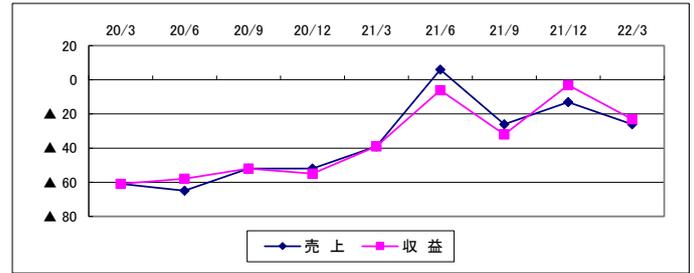
【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善の見通しです。

調査員のコメントには、「原材料の仕入価格が上昇しているが、一定量の在庫を確保しているため大きな問題はない」、「木材関連製品は今後も需要が旺盛と見込まれ、原材料の仕入価格上昇分を4月より価格に転嫁する」といったものがありました。

前年同期比

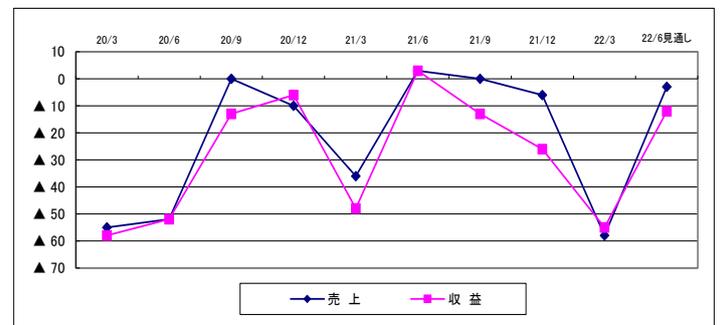
DI値図表



調査時期	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3
売上	▲61	▲65	▲52	▲52	▲39	6	▲26	▲13	▲26
収益	▲61	▲58	▲52	▲55	▲39	▲6	▲32	▲3	▲23

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6見通し
売上	▲55	▲52	0	▲10	▲36	3	0	▲6	▲58	▲3
収益	▲58	▲52	▲13	▲6	▲48	3	▲13	▲26	▲55	▲12

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	食料品	木材製品	建設関連	その他
売上額	10月～12月と比較	▲58	▲63	▲60	▲29	▲83
	4月～6月の見通し	▲3	50	0	0	▲83
収益	10月～12月と比較	▲55	▲63	▲60	▲14	▲83
	4月～6月の見通し	▲12	13	0	0	▲83
販売価格	10月～12月と比較	39	13	50	57	33
	4月～6月の見通し	45	50	40	43	50
原材料価格	10月～12月と比較	74	63	70	100	67
	4月～6月の見通し	77	75	60	100	83
原材料在庫	10月～12月と比較	6	25	0	▲14	17
	4月～6月の見通し	▲16	0	▲50	▲14	17
資金繰	10月～12月と比較	▲19	▲13	▲40	0	▲17
	4月～6月の見通し	▲17	13	▲50	0	▲16

概況

調査先卸売業全体の業況を前年同期（21年1～3月）と比較してみますと、売上で「増加」した先14%、「変わらず」の先45%、「減少」した先41%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲27となり、前回調査より36ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先13%、「変わらず」の先51%、「減少」した先36%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲23となり、前回調査より23ポイント悪化しました。

販売価格は「増加」した先59%、「変わらず」の先41%、「減少」した先0%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は59となり、前回調査と同じでした。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	DI値
売上	前回(21/12)	8	8	6	9
	今回(22/3)	3	10	9	▲27
収益	前回(21/12)	6	10	6	0
	今回(22/3)	3	11	8	▲23
販売価格	前回(21/12)	13	9	0	59
	今回(22/3)	13	9	0	59

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに悪化し、販売価格は横ばいとなりました。

内訳をみますと、建設関連以外は全般的に売上・収益が悪化し、販売価格が下降しています。

【直前3ヵ月との比較】

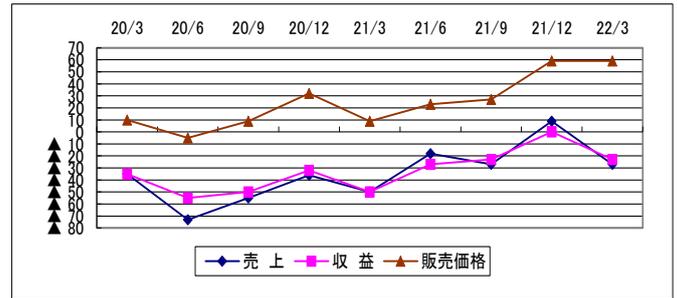
売上・収益ともに悪化し、販売価格は下降しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善し、販売価格は下降する見通しです。

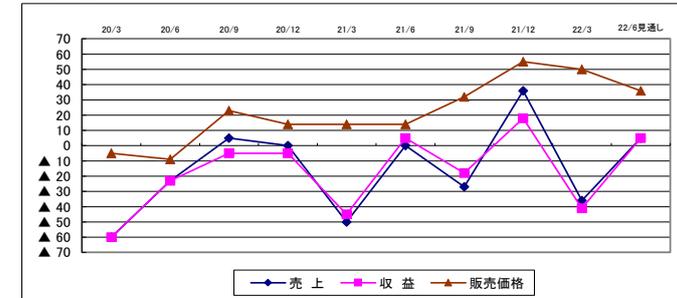
調査員のコメントには、「コロナウイルス蔓延以降、厳しい業況に置かれているが、ふるさと納税返礼品やネット販売が好調に推移している」、「商品在庫がメーカー側でも底をつき、納品が遅れている」といったものがありました。

前年同期比 DI値図表



調査時期	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3
売上	▲35	▲73	▲55	▲36	▲50	▲18	▲27	9	▲27
収益	▲35	▲55	▲50	▲32	▲50	▲27	▲23	0	▲23
販売価格	10	▲5	9	32	9	23	27	59	59

直前3ヵ月比 DI値図表



調査時期	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6見通し
売上	▲60	▲23	5	0	▲50	0	▲27	36	▲36	5
収益	▲60	▲23	▲5	▲5	▲45	5	▲18	18	▲41	5
販売価格	▲5	▲9	23	14	14	14	32	55	50	36

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	食料品	建設関連	その他
売上額	10月～12月と比較	▲36	▲14	▲88	0
	4月～6月の見通し	5	▲29	13	29
収益	10月～12月と比較	▲41	▲29	▲88	0
	4月～6月の見通し	5	▲14	13	14
販売価格	10月～12月と比較	50	43	50	57
	4月～6月の見通し	36	0	50	57
仕入価格	10月～12月と比較	36	14	38	57
	4月～6月の見通し	41	14	50	57
在庫	10月～12月と比較	9	14	0	14
	4月～6月の見通し	9	14	▲13	29
資金繰	10月～12月と比較	▲9	▲29	13	▲14
	4月～6月の見通し	0	0	0	0

概況

調査先小売業全体の業況を前年同期（21年1～3月）と比較してみると、売上で「増加」した先19%、「変らず」の先23%、「減少」した先58%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲39となり、前回調査と同じでした。

収益は「増加」した先7%、「変らず」の先35%、「減少」した先58%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲51となり、前回調査より5ポイント悪化しました。

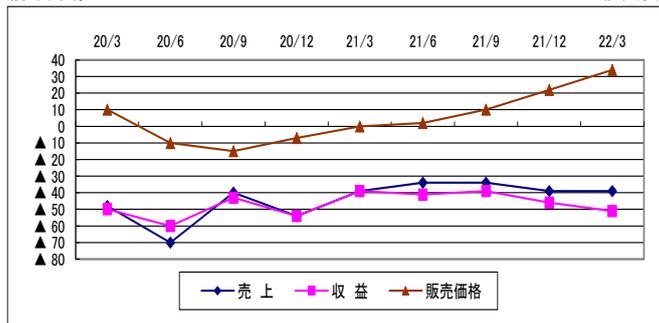
販売価格は「増加」した先39%、「変らず」の先56%、「減少」した先5%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は34となり、前回調査より12ポイント上昇しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変らず	減少	D I 値
売上	前回(21/12)	8	9	24	▲39
	今回(22/3)	8	9	24	▲39
収益	前回(21/12)	6	10	25	▲46
	今回(22/3)	3	14	24	▲51
販売価格	前回(21/12)	12	26	3	22
	今回(22/3)	16	23	2	34

前年同期比

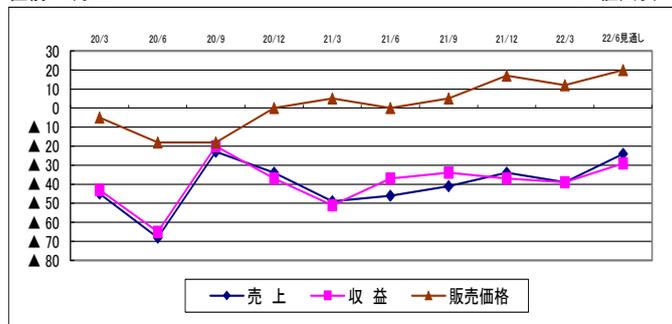
D I値図表



調査時期	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3
売上	▲48	▲70	▲40	▲54	▲39	▲34	▲34	▲39	▲39
収益	▲50	▲60	▲43	▲54	▲39	▲41	▲39	▲46	▲51
販売価格	10	▲10	▲15	▲7	0	2	10	22	34

直前3ヵ月比

D I値図表



調査時期	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6見通し
売上	▲45	▲68	▲23	▲34	▲49	▲46	▲41	▲34	▲39	▲24
収益	▲43	▲65	▲20	▲37	▲51	▲37	▲34	▲37	▲39	▲29
販売価格	▲5	▲18	▲18	0	5	0	5	17	12	20

動向

【前年同期との比較】

売上は横ばい、収益は悪化し、販売価格は上昇しました。内訳をみますと、その他が改善しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに悪化し、販売価格は下降しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善し、販売価格は上昇する見通しです。

調査員のコメントには、「半導体不足等により仕入価格が上昇傾向にあることに加え、品薄のため在庫確保に苦慮している」、「コロナ禍による外出自粛により来店客数が減少している。また、マスク生活のため化粧品販売が低迷している」といったものがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(D I値による) (%)

項目	全体	衣料品	食料品	その他	
売上額	10月～12月と比較	▲39	▲83	▲71	▲5
	4月～6月の見通し	▲24	▲50	▲36	▲10
収益	10月～12月と比較	▲39	▲83	▲57	▲14
	4月～6月の見通し	▲29	▲50	▲36	▲19
販売価格	10月～12月と比較	12	▲33	14	24
	4月～6月の見通し	20	17	21	19
仕入価格	10月～12月と比較	51	0	43	71
	4月～6月の見通し	46	33	57	43
在庫	10月～12月と比較	▲12	▲17	▲21	▲5
	4月～6月の見通し	▲10	0	▲21	▲5
資金繰	10月～12月と比較	▲32	▲33	▲36	▲29
	4月～6月の見通し	▲27	▲33	▲29	▲24

概況

調査先建設業全体の業況を前年同期（21年1～3月）と比較してみますと、売上で「増加」した先20%、「変わらず」の先37%、「減少」した先43%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲23となり、前回調査より3ポイント改善しました。

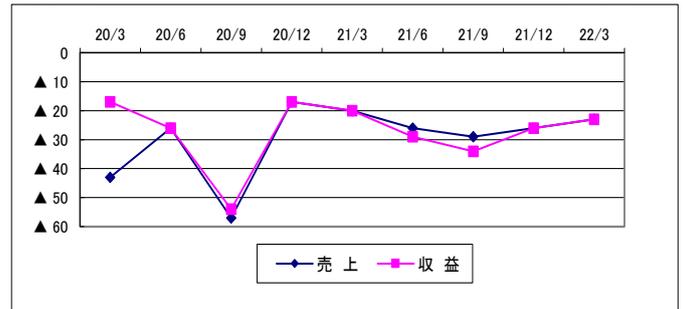
収益は「増加」した先17%、「変わらず」の先43%、「減少」した先40%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲23となり、前回調査より3ポイント改善しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(21/12)	6	14	15	▲26
	今回(22/3)	7	13	15	▲23
収益	前回(21/12)	7	12	16	▲26
	今回(22/3)	6	15	14	▲23

前年同期比

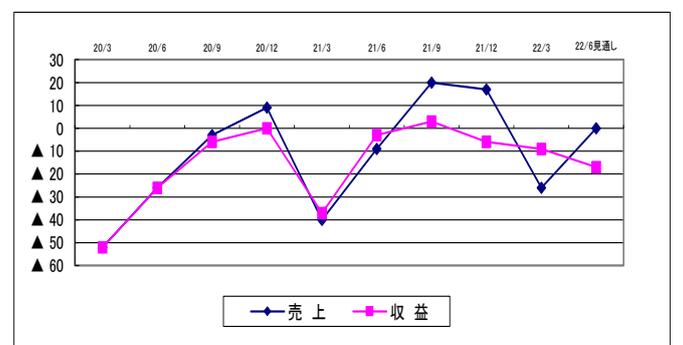
D I 値図表



調査時期	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3
売上	▲43	▲26	▲57	▲17	▲20	▲26	▲29	▲26	▲23
収益	▲17	▲26	▲54	▲17	▲20	▲29	▲34	▲26	▲23

直前3ヵ月比

D I 値図表



調査時期	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6見通し
売上	▲52	▲26	▲3	9	▲40	▲9	20	17	▲26	0
収益	▲52	▲26	▲6	0	▲37	▲3	3	▲6	▲9	▲17

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに改善しました。

内訳のD I 値の推移は以下のようになっています。

- ・ 土木売上：前回▲50→今回▲42
- ・ 同 収益：前回▲42→今回▲42
- ・ 建築売上：前回▲12→今回 0
- ・ 同 収益：前回▲24→今回 0

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上は改善、収益は悪化の見通しです。

調査員のコメントには、「仕入価格上昇分の販売価格への転嫁は一部に止まっており、今後は見積りの段階からしっかりと精査を行う必要がある」、「住宅改装工事の受注は相応にあるが、新築住宅の受注が減少している」といったものがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項 目		全 体	土 木	建 築	そ の 他
売上額	10月～12月と比較	▲26	▲25	▲24	▲33
	4月～6月の見通し	0	▲17	6	17
施工高	10月～12月と比較	▲17	▲33	▲18	17
	4月～6月の見通し	▲6	▲17	▲6	17
収益	10月～12月と比較	▲9	8	▲30	17
	4月～6月の見通し	▲17	▲25	▲24	17
請負価格	10月～12月と比較	3	8	▲6	17
	4月～6月の見通し	20	17	35	▲17
材料価格	10月～12月と比較	71	58	77	83
	4月～6月の見通し	69	58	82	50
在庫	10月～12月と比較	▲3	0	0	▲17
	4月～6月の見通し	▲6	▲8	▲6	0
資金繰	10月～12月と比較	▲14	▲8	▲12	▲33
	4月～6月の見通し	▲14	0	▲24	▲17

概況

調査先サービス業全体の業況を前年同期(21年1~3月)と比較してみますと、売上で「増加」した先20%、「変わらず」の先29%、「減少」した先51%で、そのDI値(増加割合-減少割合)は▲31となり、前回調査より1ポイント悪化しました。

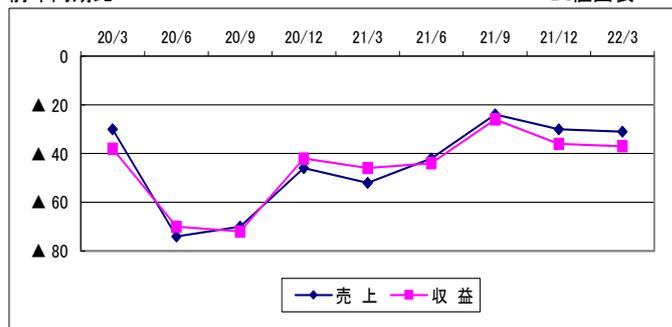
収益は「増加」した先14%、「変わらず」の先35%、「減少」した先51%で、そのDI値(増加割合-減少割合)は▲37となり、前回調査より1ポイント悪化しました。

調査回答数(前年同期比)

		増加	変わらず	減少	DI値
売上	前回(21/12)	10	15	25	▲30
	今回(22/3)	10	15	26	▲31
収益	前回(21/12)	6	20	24	▲36
	今回(22/3)	7	18	26	▲37

前年同期比

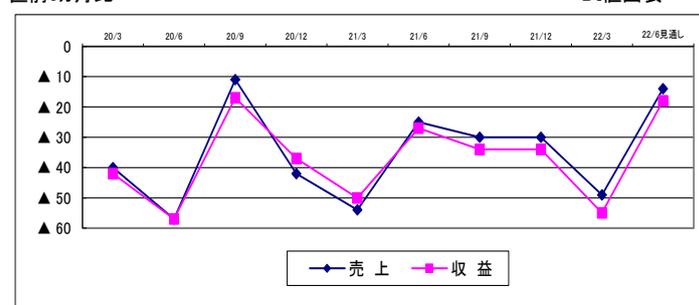
DI値図表



調査時期	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3
売上	▲30	▲74	▲70	▲46	▲52	▲42	▲24	▲30	▲31
収益	▲38	▲70	▲72	▲42	▲46	▲44	▲26	▲36	▲37

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6見通し
売上	▲40	▲57	▲11	▲42	▲54	▲25	▲30	▲30	▲49	▲14
収益	▲42	▲57	▲17	▲37	▲50	▲27	▲34	▲34	▲55	▲18

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

内訳をみますと、車両関係が悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善する見通しです。

調査員のコメントには、「昨年末にコロナウイルス感染症が収束傾向となり宿泊客が増加したが、その後の感染再拡大により客足が遠のき、業況は非常に厳しい」、「ロードの価格高騰を受け、各種メニュー価格を数十円値上げした。今後も飲食店の値上げが続きそうである」といったものがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	理容美容	車両関係	その他
売上額	10月~12月と比較	▲49	▲67	▲47	▲45
	4月~6月の見通し	▲14	22	▲47	▲7
収益	10月~12月と比較	▲55	▲67	▲47	▲56
	4月~6月の見通し	▲18	0	▲47	▲7
料金価格	10月~12月と比較	10	11	7	11
	4月~6月の見通し	20	0	20	26
材料価格	10月~12月と比較	53	11	73	56
	4月~6月の見通し	47	0	67	52
資金繰	10月~12月と比較	▲35	▲56	▲40	▲26
	4月~6月の見通し	▲22	▲33	▲33	▲11

経営上の問題点 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	原材料高 83.9%	売上の停滞・減少 38.7%	人手不足 29.0%
卸売業	売上の停滞・減少 50.0%	利幅の縮小 36.4%	同業者間の競争の激化 31.8%
小売業	売上の停滞・減少 51.2%	仕入先からの値上げ要請 29.3%	商圏人口の減少 29.3%
建設業	材料価格の上昇 74.3%	人手不足 60.0%	売上の停滞・減少 48.6%
サービス業	売上の停滞・減少 52.9%	材料価格の上昇 35.3%	人手不足 19.6%

経営施策 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	新製品・技術を開発する 54.8%	経費を節減する 51.6%	販路を広げる 38.7%
卸売業	販路を広げる 59.1%	情報力を強化する 54.5%	経費を節減する 50.0%
小売業	経費を節減する 53.7%	売れ筋商品を取扱う 31.7%	品揃えを改善する 26.8%
建設業	人材を確保する 62.9%	技術力を高める 48.6%	経費を節減する 42.9%
サービス業	経費を節減する 45.1%	販路を広げる 27.5%	人材を確保する 23.5%

【調査要領】

1. 調査地域 北見地方1市4町（北見市、置戸町、訓子府町、美幌町、津別町）
2. 調査時点 2022年 3月
2022年 1月～ 3月期の実績および見込み
2022年 4月～ 6月期の見通し
3. 調査対象企業 当金庫お取引先180社（任意抽出）
回答企業数 180社
回答率 100%
4. 調査方法 調査表による訪問聞き取り調査
調査表は信金中央金庫が実施する「全国中小企業景気動向調査」と同一のものを使用
5. 業種別回答企業数

製造業	卸売業	小売業	建設業	サービス業	合計
31	22	41	35	51	180

6. 分析方法 各質問項目を100分比に換算し、パーセント（%）数値による分析を行いました。また、好転か悪化の傾向をみる方法として、「増加割合－減少割合＝判断指数（DI値）」で分析を行いました。

企業の経理事務を便利にサポート
インターネットバンキング
WEB-FB

- 総合振込 ■給与・賞与振込 ■都度振込 ■口座振替 ■入出金明細照会 ■残高照会

低コスト！

インターネットが使える環境さえあれば、すぐにご利用が可能です。
 専用ソフト、専用端末などに余計な経費をかけません。

効率的！

総合振込、給与・賞与振込、都度振込、口座振替業務がインターネット経由でスピーディにご利用いただけます。
 振込や振替のデータは外部ファイルから取り込むこともできます。

便利！

登録先の口座以外でも当日振込が可能です。急な振込がオフィスのパソコンから随時できるので便利。
 また、振込完了や為替エラーなど、重要な連絡を電子メールでタイムリーにお知らせします。

安心！

一般者用ID、承認者用ID、管理者用IDの3つのIDで権限設定が可能です。
 登録したデータの承認を貴社の管理者がダイレクトにできるため、厳密なチェックが可能です。
 電子証明書とワンタイムパスワードにより、安全にご利用いただけます。

オホーツク圏経済情勢報告（令和3年10～12月期）概況

	前回(3年11月発表)	今回(4年2月発表)	前回比較	総括判断の要点
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	新型コロナウイルス感染症の影響を受けるなか、持ち直しの動きがみられる 【判断の上方修正は、令和2年7-9月期以来、5期ぶり】		個人消費は、感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。 観光は、感染症の影響により弱い動きとなっているなか、一部に持ち直しの兆しがみられる。 また、雇用は、緩やかに持ち直しの動きがみられる。
	前回(3年11月発表)	今回(4年2月発表)	前回比較	
個人消費	感染症の影響により一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある		
観光	感染症の影響により、弱い動きとなっている	感染症の影響により弱い動きとなっているなか、一部に持ち直しの兆しがみられる		
雇用	緩やかに持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直しの動きがみられる		
公共事業	前年を下回る	前年を上回る		
住宅着工	前年を上回る	前年を下回る		
先行き	感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、感染症による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。			